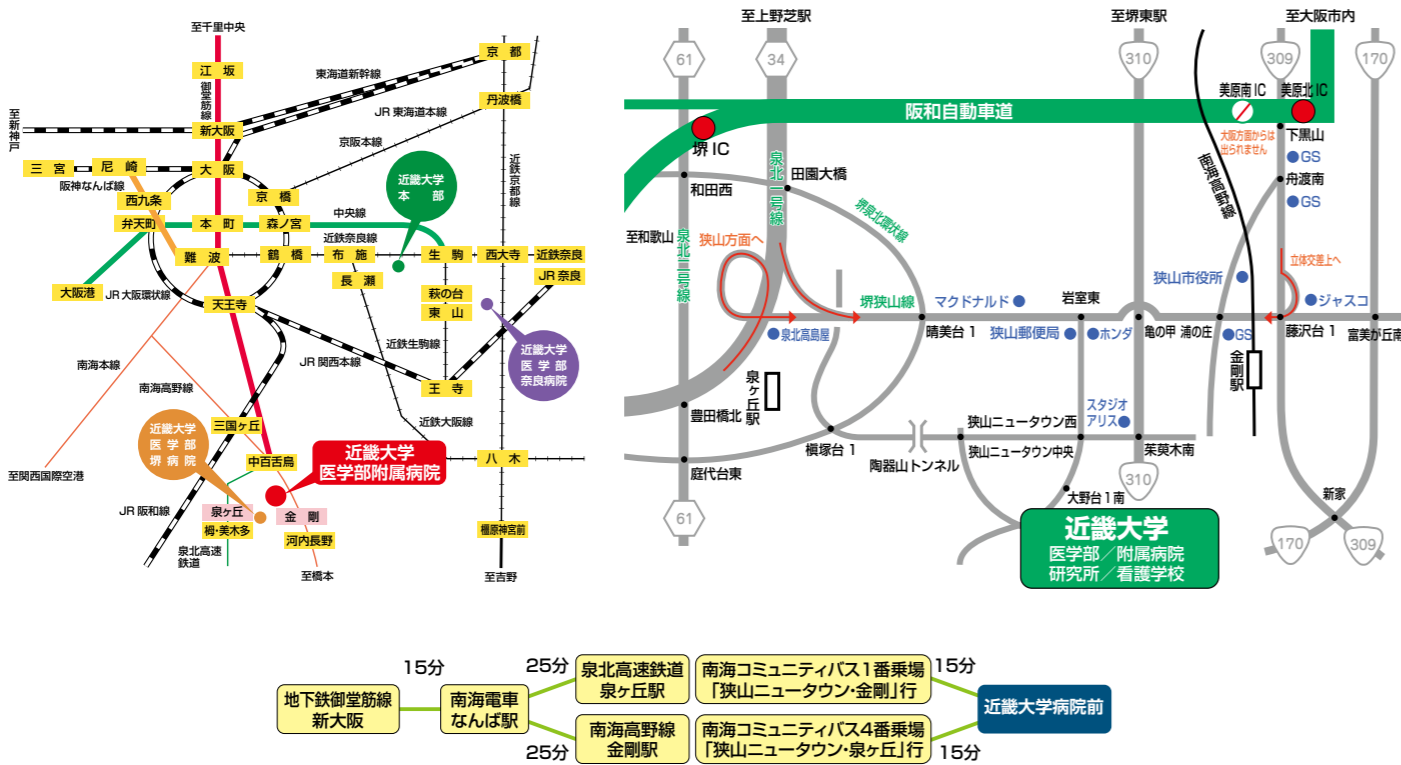


アクセス



# きずな

Vol.13  
Winter-Spring

Kinki University Hospital, Faculty of Medicine.



Kindai Now  
手術支援ロボット  
“da Vinci”  
ダヴィンチ

糖尿病治療  
「J-DOIT3」で4年連続1位

生活習慣病・がん発症の要因  
「睡眠障害」

がんセンター  
がん向き合う

各診療科のご案内

3F	産婦人科、小児科、眼科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、疼痛制御センター(麻酔科)、形成外科、歯科口腔外科、東洋医学診療所
2F	循環器内科、内分泌・代謝・糖尿病内科、消化器内科、血液・膠原病内科、腎臓内科、神経内科、腫瘍内科、呼吸器・アレルギー内科、メンタルヘルズ科、外科(上部消化管、下部消化管、肝胆膵)、外科(肺)、外科(乳腺内分泌)、外科(小児)、脳神経外科、心臓血管外科、心療内科、漢方診療科、緩和ケア科
1F	整形外科、放射線治療科、放射線診断科、リハビリテーション科

外来受付時間

平日	土曜	休診日
予約外又は紹介状をお持ちでない患者さま 8時30分～11時30分	8時30分～11時00分	日曜日・祝日 創立記念日(11月5日) 年末年始 (12月29日～1月3日)
紹介状をお持ちの患者さま 8時30分～14時00分		

※患者さまが当院での治療等を必要とされる場合、紹介医からの紹介状が原則となっておりますので、なるべく当院宛の診療情報提供書(紹介状)を持参頂きますようお願いいたします。  
※初診時に紹介状をお持ちでない方には、保険外併用療養費として10,800円(消費税込み、平成26年6月1日より)をご負担頂きます。  
※診療科によっては、完全予約制や休診日もございますので、詳しくは各診療科にお問い合わせください。

編集後記

近畿大学医学部 附属病院 広報誌「きずな Vol.13」をお届けします。発行から6年以上経過しました。皆さまからの貴重なご意見を参考にさせていただき、今号もさらに紙面のデザインを改善しています。近畿大学の「いま」と「これから」を分かりやすくお伝えさせていただきたく存じます。これからも皆さまに役立つ内容を提供できるよう努めていく所存です。今後とも、皆さまとのつながりを大事にする「きずな」をご愛読のほど、宜しく願い申し上げます。  
発行日/平成26年12月1日  
発行場所/近畿大学医学部附属病院  
編集/広報誌発行委員会 大磯 直毅

ノースモーキング  
ホスピタル宣言

健康維持・増進のために、タバコのない病院を目指します。皆様のご協力をお願いします。 病院長



院内および敷地内は**全面禁煙**です。

入院される患者さまには、禁煙に関する同意書を記入していただいております。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



病院長就任のごあいさつ

## 先進医療を目指し、 災害や病気に対応していきます。

近畿大学医学部附属病院は南大阪地区における唯一の大病院としてがん診療には特に力を注いで参りました。年間新入院患者約2万人のうちがん患者の占める割合は約30%、そのうち5大がん(肺・胃・大腸・肝臓・乳)は約60%を占めております。また救急医療では昨年、救急災害棟を新設し、一般病院では対応困難な高度外傷、熱傷、中毒患者の治療をはじめ、脳卒中、心筋梗塞に対する迅速な対応を行っております。

とはこのものの現在の病院は老朽化が進み、ハード面で皆様には大変ご不便をおかけしております。泉北泉ヶ丘地区における新病院への全面移転まで何卒ご理解を賜りますようお願いを申し上げます。

近畿大学医学部附属病院 病院長 奥野 清隆

### 【理念】

患者本位の開かれた病院として、安全で質の高い先進医療を提供します。

### 【基本方針】

1. 特定機能病院として、医学医療の進歩に関与し、社会に貢献します。
2. 教育病院として、人に愛され、信頼され、尊敬される医療人を育成します。
3. 南大阪における基幹病院および救急災害病院として地域医療に貢献します。
4. 働きがいのある病院として、チーム医療と環境整備に努力します。

### 《受診される皆さまの権利》

近畿大学医学部附属病院では受診される皆さまが以下に掲げる権利を有することを確認し、尊重します。

1. 人間としての尊厳を尊重されながら医療を受ける権利
2. 病院全機能をあげて最善で安全な医療を受ける権利
3. 自らの心身の状態を理解するために当院から必要な情報を得る権利
4. 当院から必要十分な情報の説明を得た上で、自己の自由な意志に基づいて医療行為を決定する権利
5. プライバシーの保護を受ける権利
6. 必要に応じ、医療費用の内容に関する情報を受ける権利

### 《臨床倫理》

1. 医療を受ける人々の権利を最大限尊重するとともに、医療を受ける人々の最善の利益を追求する医療を提供する。
2. 医療を受ける人々の信条や価値観に十分配慮する。
3. 医療内容、治療の選択について詳しく説明し、医療を受ける人々の自由な意思に基づいて医療行為を決定する権利を尊重する。
4. 倫理的な問題を含むと考えられる医療行為については、法令やガイドラインを遵守するとともに、院内において十分審議検討を行う。

## Contents

病院長就任のごあいさつ ..... P.1  
 Kindai Now da Vinci ..... P.2  
 特集 内分泌・代謝・糖尿病内科 ..... P.3・P.4  
 特集 睡眠体内時計外来 ..... P.5・P.6  
 特集 がんセンター「がんと向き合う。」..... P.7・P.8  
 診療科紹介 救急医学 -ER- ..... P.9  
 研究室紹介 Who's who 臨床検査医学 ..... P.10  
 Face of the hospital 看護部 ..... P.11

Face of the hospital 薬剤部 ..... P.12  
 Face of the hospital 栄養部 ..... P.13  
 チャイルド・ライフ・スペシャリスト ..... P.14  
 つながる近畿大学 薬学部 医療薬学科 ..... P.15  
 卒業生の今 ..... P.16  
 連携病院 つなぐ ..... P.17  
 患者支援センターのご案内 ..... P.18

Kindai Now

## 精度の高い手術を 可能にする先進の技術

**da Vinci** ダヴィンチ

ロボット支援下によるより安全で  
質の高い手術をご提供できます。

2013年12月に手術支援ロボット“da Vinci”を導入しました。今回導入した“da Vinci Si”は最新の機種であり、2人の医師が同時にロボットを操作できる2台のコンソールが配備されたものです。手術支援ロボットであるダヴィンチの特徴としては、①3次元の立体画像で鮮明に手術野を映し出し、②多機能関節機能を持った鉗子で、実際の手を動かすような細かい作業が可能で、③手振れ補正ができるためより精密な手術が行えることです。

日本においては、現在前立腺がんに対する手術のみが保険適応となっており、泌尿器科にて2月より前立腺全摘術を開始しました。当院で内視鏡手術を積極的に行っている外科においては、胃がん手術や大腸がん手術・肺がん手術などを開始予定にしており、将来的には、先進医療として行えると考えています。

手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入により、手術鉗子や人の手では困難な微妙な手技が行えるために、より合併症の少ない、精度の高い手術が可能となり、医師、看護師、臨床工学技士がチーム一丸となって、低侵襲手術である内視鏡外科手術をロボット支援下に行うことで、より安全で質の高い手術を提供できると考えています。

(文/今本 治彦、上田 和毅)



外科(内視鏡外科部門)  
教授 今本 治彦

外科(内視鏡外科部門)  
医学部講師 上田 和毅



3Dによる優れた視覚により  
高度で安全な手術が可能です。

ダヴィンチ手術の最大のメリットは3Dによる優れた視覚、コンピューター制御により手術操作にブレがなくなること、鉗子の関節の可動域が多彩であることが挙げられます。これらを駆使することにより、安全かつ確実に手術を行うことが可能になります。

子宮がんなどの悪性腫瘍においても、ダヴィンチ手術は3Dによる優れた視覚により、血管やリンパ管などきめ細やかな解剖が把握でき、従来の開腹手術や腹腔鏡手術と比較してもより安全かつ出血量も少なく手術を行うことが可能になります。また、小さな傷が数ヶ所ですべて手術を行うため、美容的な面だけでなく、術後の痛みが少なく、回復も早いのがメリットです。最近では、子宮頸がんによる広汎子宮全摘術や子宮体がんによる傍大動脈リンパ節郭清など開腹手術ではかなり大きな傷が残る手術も当科ではダヴィンチ手術で行っています。

アメリカではダヴィンチ手術の件数で産婦人科が一番多いのが現状で、婦人科がんのほとんどがダヴィンチ手術で行われています。ただし、日本では保険適用がなく、当科でも現在は研究という名目でやっているのが現状です。将来的には、先進医療や保険収載されれば、もっと多くの患者さまにこの技術が提供できると思います。現在産婦人科では、万代昌紀教授はじめ、鈴木彩子、小谷泰史の3名でチームを組み、ダヴィンチ手術に臨んでいます。今後、多くのがん患者さまに優れた技術を提供できるよう日々励んでおります。

(文/小谷 泰史)



内分泌・代謝・糖尿病内科

ライフスタイルの影響で増えつづける糖尿病。  
当院では糖尿病の専門医をはじめ、さまざまなスペシャリストが力を合わせて、きめ細やかな治療・ケアにあたる「内分泌・代謝・糖尿病内科」。  
その活動は、厚生労働省のサポートのもと実施されている「J-DOIT3」というプロジェクトにおいて、**4年連続1位**という評価を得ています。

患者さまを中心にした  
チーム医療によって  
きめ細やかな  
テーラーメイド医療を展開

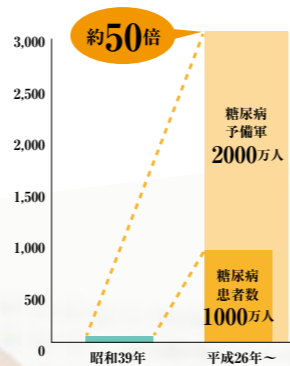
近年、食生活や慢性的な運動不足など、ライフスタイルの影響で、糖尿病に代表される内分泌・代謝の疾患が増えています。現在、糖尿病の患者数は約1000万人、疾患の可能性がある予備群を入れると約2000万人といわれています。この数は、50年前と比較して約50倍にもなります。

このような状況において糖尿病の治療・ケアの重要性はより一層高まっており、当院では「内分泌・代謝・糖尿病内科」という専門の診療科を設置して、質の高い医療サービスをご提供しています。

内分泌・代謝・糖尿病内科の特長は、患者さまのこれからの人生を見すえ、安全・安心・快適に生活を送っていただくために、“全人的”な治療とケアを行っていることが挙げられます。そのための取り組みのひとつが、患者さまを中心にさまざまな職種のスタッフが力を合わせる「チーム医療」です。当院では糖尿病専門医、栄養士、糖尿病療養指導の資格を持った看護師、薬剤師、理学療法士などで構成され、きめ細やかなテーラーメイド医療、即ち患者さま一人一人に応じた最適の医療を行っています。

糖尿病は合併症を起こすリスクが高い疾患です。大学病院である当院は、幅広い専門の診療科と連携し、総合的な治療ができる環境が整っていることも大きな強みといえるでしょう。

糖尿病患者数の推移



講師  
廣峰 義久

准教授  
川畑 由美子

主任教授  
池上 博司

管理栄養士  
渡辺 紗弥佳

栄養士  
木林 弥生

先進的な糖尿病治療を  
目指す「J-DOIT3」で  
4年連続1位

J-DOIT3  
NO.1

前向きに治療・ケアに  
取り組む患者さまの  
交流の場づくり

糖尿病の治療・ケアは日々進歩しており、新しい技術やアプローチを積極的に取り入れています。現在、厚生労働省のサポートのもと実施されている、糖尿病の合併症を抑制するための先進的な活動を行う「J-DOIT3」というプロジェクトに力を入れており、当院は「総合評価」において4年連続で全国1位の評価をいただいています。プロジェクトの一環として、J-DOIT3専門外来、多職種による定例カンファレンス、個別の症例について検討する糖尿病専門医によるカンファレンスを実施しており、これらの活動で得た成果を一般の治療にも活かせるよう努めています。



糖尿病の治療は、医療スタッフからのアプローチだけでなく、患者さま自身によるセルフケアが欠かせません。そこで「糖尿病教室」を継続的に開催し、チームメンバーに加え、薬剤師、理学療法士や歯科衛生士などが指導にあたりサポートしています。さらに「近糖会」という患者さま同士の交流会を運営し、勉強会を開催するとともに悩みやそれぞれの想いを共有して、改善に向けてのモチベーションアップを図っています。治療の中心は患者さま。私たち医療スタッフは患者さまを全力でサポートすることが使命です。一緒に学びながら、がんばりましょう。



Kindai  
Medical  
Care

睡眠体内時計外来(呼吸器・アレルギー内科)

「なかなか眠れない」  
「睡眠途中で何度も目が覚めてしまう」  
「昼間に長時間強い眠気を感じる」といった、  
睡眠障害でお悩みの方が増えています。  
さまざまな治療方法がある中、当院ではヒトの身体にある  
“体内時計”を調節して改善を図る、  
「睡眠体内時計外来」を毎週木曜日に開設しています。

睡眠障害による睡眠不足が  
生活習慣病・  
がん発症の要因に

睡眠障害の大きな原因として、ヒトの活動リズムをつくる  
“体内時計”にズレが生じてしまっていることが挙げられます。  
体内時計は24時間以上の周期で動いているため、誰でも自然にズレてくるのですが、人体には朝に陽の光を眼で感じることで調整する機能が備わっています。ところが、高齢や病気のために外出が難しくなったり、習慣的に夜遅くまで起きていたり、さらにはブルーライトの影響などによって、調整機能が低下して体内時計の乱れが生じてしまいます。  
これらの睡眠障害によって睡眠不足になると、昼間に眠くつらい思いをするばかりではなく、高血圧、肥満、糖尿病などの生活習慣病や、がん発症の要因となるリスクをかかえることにもなります。

近畿大学医学部解剖学教授  
呼吸器・アレルギー内科医師

重吉 泰史

Yasushi Shigeyoshi

「睡眠日誌」をもとに  
体内時計をリセット

睡眠体内時計外来では、生活習慣のヒアリング結果や、毎日の睡眠状況を記録する「睡眠日誌」をもとに、体内時計をリセットして改善を図る指導を行っています。さまざまな睡眠障害の治療がある中、体内時計調節を中心とするこのような治療は全国的にみても数少ない先進的なアプローチといえるでしょう。

体内時計を調整して睡眠不足を解消することで、生活習慣病をはじめとする疾患の予防だけでなく、今ある疾患の悪化を防ぐ効果があります。また、睡眠導入剤をできるだけ使用しないため、お薬の副作用の心配が少ないことも大きな特長です。不眠・過眠でお悩みの方は、お気軽にご利用ください。



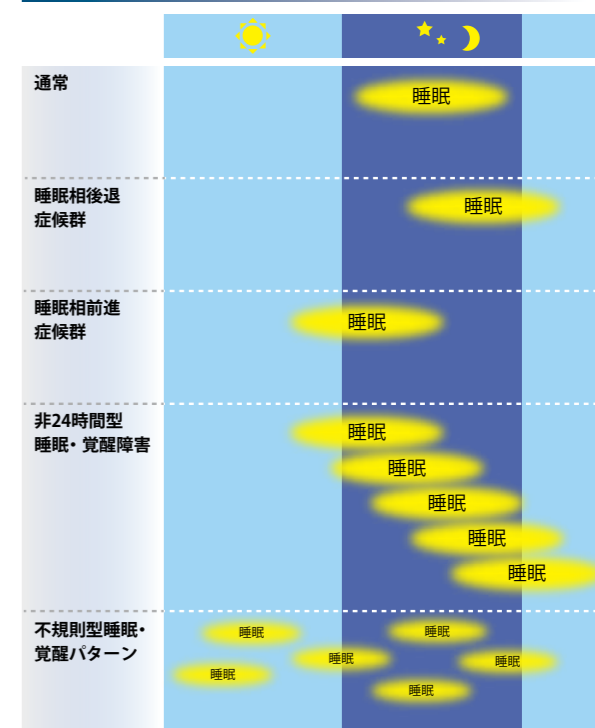
睡眠日誌

「快眠10か条」



1. 定期的に軽い運動をしましょう。
2. 室温・湿度など、快適に眠れる環境を整えましょう。
3. 規則正しい食生活を心がけましょう。
4. 夜の水分のとり過ぎに注意しましょう。  
※脳梗塞や狭心症、血液循環に問題がある方は、主治医の指示に従ってください。
5. 就寝5時間前からカフェインはとらないようにしましょう。  
※コーヒー、紅茶、緑茶、チョコレートなどに多く含まれています。
6. 就寝前の飲酒・喫煙は避けましょう。
7. 就寝前はリラックスするようにしましょう。  
(軽いストレッチや、ぬるめの湯での入浴など)
8. 眠くなってから布団に入るようにしましょう。
9. 起きたら15分以上、戸外に出て朝日を浴びましょう。
10. 午後3時以降のお昼寝はやめましょう。

概日リズム睡眠障害

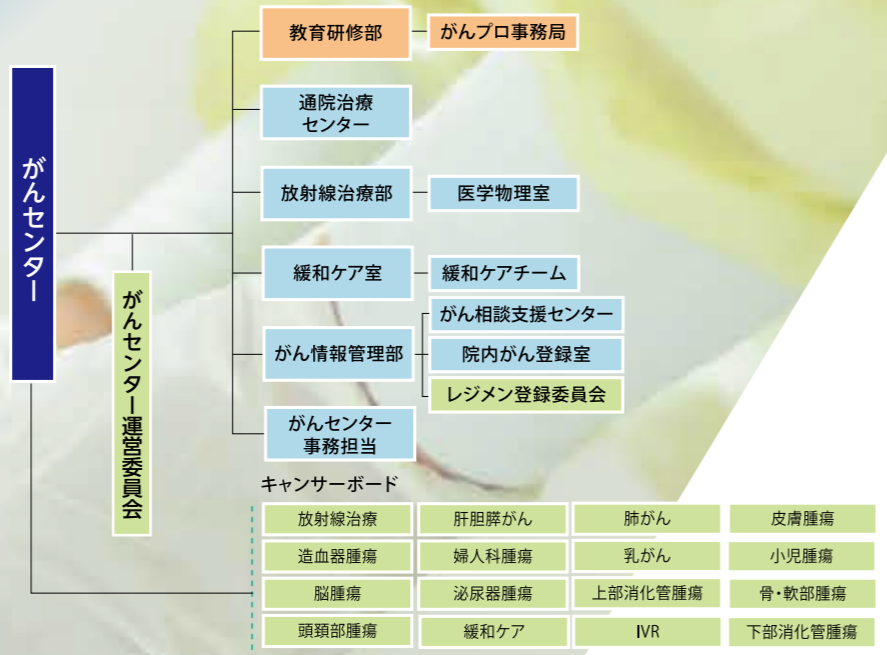


がんセンター「がんと向き合う。」

質の高いがんの治療とケアを提供するために

当院は“質の高い、がんの治療とケアを提供するために”を目指して、2007年に「近畿大学医学部附属病院がんセンター」を開設しました。センター内に通院治療センター、放射線治療部、緩和ケア室、がん相談支援センターを設置し、質の高いがん医療のご提供はもちろんのこと、地域の医療機関や住民の方々への情報発信、すぐれたがん専門医の育成に取り組んでいます。

■ がんセンター組織図



活動レポート 第6回近畿大学 PEACE 緩和ケア研修会

がんは身体的な苦痛だけでなく、不安や抑うつなどの精神的な苦痛、仕事上の問題、経済的な問題、家族の問題など社会的な苦痛を伴うケースが多いため、近年はこれらの問題解決を支援する「緩和ケア」が重要になっています。がん対策の総合的・計画的な推進を図るために、厚生労働省が打ち出した「がん対策推進基本計画」においても、“がん診療に携わるすべての医師が、緩和ケアの基本的な知識・技術を習得すること”と記されています。地域がん診療連携拠点病院に指定されている当院では、医師を対象にした「近畿大学PEACE緩和ケア研修会」を継続的に行っており、2014年7月に第6回研修会を開催しました。



※当研修の修了者名簿は、「近畿大学医学部附属病院がんセンター」ホームページにて掲載しています。

1日目 緩和ケアに関する基本的な知識と技術、最新の動向などを講義。

2日目 現役の医師たちが患者さまになりきって、患者さまの気持ちを疑似体験するロールプレイを実施。

2日間(計13時間)の研修を受けた医師(43名)に、企画責任者の小山先生より厚生労働省発行の修了書が手渡されました。お疲れさまでした!

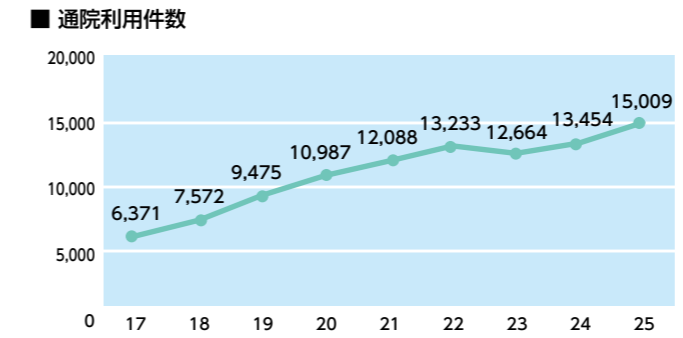


<http://www.med.kindai.ac.jp/gancenter/>

通院治療センター 通院による抗がん剤治療を受ける患者さまに “その人らしく” 生きるための支援をしています

近年、通院でがんの治療を受ける患者さまが増えています。厚生労働省の「平成23年度の患者調査」によると、外来を受診しているがん患者さまの割合は、全体の約59%を占める結果となっています。

こうした時代の流れに対応した医療サービスをご提供するために、がんセンター内に設けられたのが「通院治療センター」です。対象となるのは、主に抗がん剤治療を受ける



患者さまです。外科的な治療や放射線治療は根治を目的とすることが多いのに対して、抗がん剤治療は根治だけでなく症状の緩和、延命のために行われるのが特徴です。がんの他にも、薬剤による治療が必要な関節リウマチ、クローン病、ベーチェット病などの患者さまにもご利用いただいております。年間約14,000件以上ご利用いただいております。地域の方々に信頼していただいている証と、強く感じています。

私たちの使命は、通院する患者さまに安全・安楽で、最適な治療をご提供することです。そのために、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、事務員がそれぞれの専門性を発揮すると共に、連携することでより質の高い治療とケアを実施する、「チーム医療」に取り組んでいます。

各領域の専門医や理学療法士や、特定の看護領域で専門的な知識と技術を持つ専門・認定看護師なども加わります。このように幅広く、すぐれた医療スタッフが協力し合える環境は、大学病院の大きな特長といえるでしょう。

「がん」というと“不治の病”というイメージがあるかもしれませんが、医学の進歩によって生存率は高くなっています。それに伴い、がんとつき合いながら“自分らしく生きる”ことが課題となっています。私たちが全力でサポートしますので、前向きな気持ちで、がんと向き合ってくださいと思います。



がん看護専門看護師 長尾 充子

レシピの趣旨 管理栄養士が提案するがん患者さまのための食事と工夫 卵料理は、食欲低下時でも比較的簡単に栄養が取りやすく食べやすい料理のひとつです。

【基本の卵液】

卵	1個
だし汁	150～200ml (卵の3～4倍)
薄口しょうゆ	5cc (小さじ1)
塩	ひとつまみ
みりん	少々

1 茶碗蒸し シンプルな「茶碗蒸し」は、食欲不振時に人気の1品です。みつば、きのこ、鶏肉、かまぼこ、ゆずなどいろいろな具を好みに合わせて。

2 空也蒸し 豆腐を入れて蒸した「空也蒸し」は、あっさりとした食しやすい味わいです。当院でも入院患者さまに人気の一品です。

3 おだま 小田巻き蒸し うどんが入った「小田巻き蒸し」は大阪の郷土料理のひとつです。大皿で作りみんなで取り分けて食べるのもよいですね。

4 番外編：プリン 卵1個に対し、牛乳120ml(卵の2.5倍)、砂糖25gを加え蒸すとカスタードプリンになります。甘さが気になる方は砂糖をひかえ、フルーツソースなどの酸味を利用するのもよいでしょう。ココアやコーヒー、抹茶などを加えてもよいですね。

いろいろなかたちで、高栄養の卵料理をお試ください。

がん病態栄養専門管理栄養士 菅野 真美

食事についてのご相談は・・・外来栄養相談室にてお伺いしております。ご要望がございましたら、主治医の先生にお伝えください。



センター長  
救急科専門医 教授

平出 敦  
Atsushi Hiraide

## 目指すのは医療の シャーロック・ホームズ

准教授  
救急科専門医

西内 辰也  
Tatsuya Nishiuchi

### 緊急を要する患者さまと 最適な専門部門との架け橋となる ER

「救急医学」という言葉を見ると、おおまかな意味は分かるけれど、どのような部門があり、どんなことをしているのかまではイメージしにくいのではないのでしょうか。今回ご紹介する「ER(救急外来)」は、原因が明らかでない症状や急な治療が必要な患者さまの初期診療を行い、最適な専門部門、場合によっては地域の医療機関へ、スムーズな引き継ぎをする役割を担っています。そのためERの医師は、迅速・的確な判断力と幅広い知識が求められます。例えば、ERは患者さまと専門部門をつなぐ入口、医師は知識をもとに答えを導くシャーロック・ホームズのような存在といえるでしょう。

### 大学病院であるメリットを活用して 診断の精度をアップ

ERを設置する病院が増えつつある中、大学病院において当院は先がけ的な存在といえます。当院のERの特長は、経験豊富な医師が在籍していることに加え、救急医学を統括する「救急災害センター」の各専門部門をはじめ、幅広い診療科と連携できることです。さらに、不確実性の高い患者さまの経過を診る「オーバーナイトベッド(1泊する観察入院)」を設けるなど、診断の精度を高める取り組みを実施しています。



## 研究室紹介

### Who's who 臨床検査医学 Clinical Laboratory Medicine



### 臨床検査部と臨床をつなぐ コーディネーターの役割を担う

医療の現場である病院には医師や看護師など、直接患者さまと接するスタッフの他にも、様々な分野の専門スタッフが活躍しています。「臨床検査医学」もそのひとつ。

主な活動として挙げられるのが、診断や治療のための検査を行う中央臨床検査部と、臨床をつなぐコーディネーターとしての役割です。「臨床検査技師と医師だけでは、知識や観点の違いによって切れ目ができてしまいます。

双方の知識を持つ私たちが調整することで、医療の質向上につながるんです」と語る、上裕教授。

この業務には、臨床サイドの要望を検査に反映して精度を高めることや、診療のベースとなるガイドラインの最新情報を臨床検査技師に伝えることも含まれます。

さらに上裕教授は、臨床検査技師と患者さまとの距離を縮める取り組みにも力を入れているとのこと。

「技師さんに現場を知ってもらうことで、検査の先には患者さまがいらっしゃるという意識が強くなりました」



### これからの医療を 育てることも大切な使命

次代を担う学生の教育も、大学病院にとって大切な役割です。中央臨床検査部においても、臨床検査技師、看護師、薬剤師を目指す学生の研修を実施。また、研修医教育を含む医師の卒後教育も積極的に行っています。



「近年、臨床検査技師の能力は高くなっており、活躍するフィールドも広がっています。それは多様化するニーズに応える知識と技術が求められることでもあるので、優秀な人材を育成することが使命だと考えています」

コーディネーターも教育も、すべては患者さまのため。上裕教授の言葉から、「患者さまの視点」を大切にしていることが伝わってきました。

近畿大学医学部附属病院  
臨床検査医学部教授

上裕 俊法

Toshinori Kamisako





# 看護部

優しいさのある  
心あたたかい看護



## 病棟紹介 80 病棟

脳神経外科・整形外科・放射線科の3科混合病棟です。私達は、多職種や他部門と連携をとり、入院時から退院を見据えた看護を実践しています。看護の質向上を目指して、ベッドサイドカンファレンスを毎日実施し、患者さま・ご家族の思いを大切にすることをモットーに、チーム一丸となって頑張っています。



### 看護長からひと言

「昨日よりも、今日もっと良い看護を実践する」という思いを大切に、意欲あふれるスタッフに囲まれ、日々共に成長する喜びや学ぶ楽しさを感じています。

引き続きやりがいや挑戦する意欲を持ち続けられる病棟作りをめざします。

(文/田尻 ゆかり)

## 脳卒中リハビリテーション 看護認定看護師の紹介

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は包括的なコーディネーターが求められています。

そこで、脳卒中における超急性期のモニタリングや二次的合併症の予防から、生活の再構築を目的とした患者さまやご家族の意思決定支援まで、あらゆる視点で患者支援に取り組んでいます。一貫したケアが提供できるように、役割モデルを示し、スタッフへの指導・相談に対応する日々を送っています。今後は、地域との連携を充実させ、個々の障害に応じた自立支援の為に、活動の場を広げていくことが目標です。

看護部  
主任・看護師

林 真由美

Mayumi Hayashi



# 薬剤部

注射薬をより安全に  
提供するために



## 注射薬個人別払い出し 業務について



注射薬自動払出システム

薬剤部の薬品管理室は病院棟地下1階にあり、薬剤師・定時事務職員の9名で日々の業務に携わっています。

薬品管理室では各外来や病棟等への注射薬払い出し業務や薬品の在庫管理業務等を行っています。今回はその中で、「注射薬個人別払い出し業務」に関する内容を紹介させていただきます。「注射薬個人別払い出し業務」では入院患者さまの注射処方内容に基づき、1日分ずつ患者さま毎に注射薬を準備し、病棟へ払い出しています。払い出し作業には注射薬自動払出システムを用いて、アンプルやパイア

ル製剤の取り揃えを自動化しており、迅速かつ正確な取り揃えを行っています。また、薬剤の量のチェックや他の薬剤との相互作用の確認なども薬剤師が専門的な知識を最大限活用し行っています。薬品管理室での業務は直接患者さまと接することはあまりありませんが、注射薬の安全な使用のために働く「縁の下の力持ち」といった存在です。

今後もより安全な薬剤を患者さまに提供できますよう努めて参ります。

(文/小宮 泰子)

つなかる  
近畿大学  
薬学部  
医療薬学科



Faculty of Pharmacy



医療薬学科 教授  
高田 充隆  
Mitsutaka Takada

### チーム医療で活躍できる優れた 薬剤師の育成を目指します

薬学部では、これからの医療において患者さまの治療に貢献できる優れた薬剤師の育成を第一の目標としています。超高齢化社会を迎え、医療における薬物療法は益々重要となってきました。

医療は複雑にしかも多岐に渡ってきており、医療に関わる多くの専門職が連携して治療にあたるのが求められており、現代の医療はチーム医療の時代と言われています。こうした中、チーム医療で活躍できる薬剤師の養成を目標としています。

#### ■研究概要

薬学部では、有機化学、分析化学、物理化学を基盤とした基礎薬学、医薬品素材を見出す薬用資源学、薬の作用を研究する薬理学、薬物治療学、創薬を目標とした創薬設計科学、病気の原因に狙いを定めた分子標的治療薬を作りだすゲノム創薬科学、再生医療などの先端医療が研究の中心になっています。また、最近では、患者さまへの成果還元を目標とした医薬品の安全性や有効性の評価を目標とした臨床研究まで、幅広い研究を行っています。

## 卒業生の今

### 治療や診断で行き詰まったとき 相談できる心強い母校



小川 律子 先生  
Ritsuko Ogawa

私は、昭和58年近畿大学医学部を卒業いたしました小川(旧姓溝部)律子と申します。

生まれ育った福岡で過ごした年月より、ここ大阪での生活の方が2倍程長くなって、さすがにパンチパーマとヒョウ柄とはいきませんが、シッカリ大阪のおばちゃんが板について参りました。

卒業後は、当時の第二内科に入局させていただき、大阪日赤病院、金剛原田病院(当時)、辻本病院と経て平成9年狭山ニュータウン内に内科クリニックを開業し、本年4月現在地に移転いたしました。

まさに、近大病院のお膝元と言える立地条件ですので入院の依頼はもとより、治療や診断に苦慮した際など困った時は何時も大変お世話になっております。患者支援センターに連絡を取らせていただくと、迅速に丁寧に対応して頂けるので心強く思っています。先端医療から長く遠ざかった身としてはわからないことが多くなる一方ですが、母校が近くにあり親切で適切なサポートは感謝に堪えません。これからもどうぞ宜しくご指導ご鞭撻のほどお願い致します。

## おがわクリニック

〒589-0022 大阪府大阪狭山市西山台3丁目15-8  
TEL072-366-7211  
<http://www.ogawa-cl.com/>



診療時間 ○内科 ○循環器科 ○消化器科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	●	●	●	●	●	●	×
17:00~19:00	●	×	●	×	●	×	×

休診日：日曜日・祝日







# 栄養部

## 嚥下食を経口から安全に摂取するために

当院では様々な病態に対応した入院中のお食事を提供しておりますが、その中のひとつに嚥下食があります。嚥下食は、加齢による嚥下機能低下のある患者さまはもちろん、脳血管疾患やその他の疾患により嚥下機能に障害のある患者さまを主な対象としています。

嚥下食には食形態の段階が設けられており、軽症から重症まで嚥下機能の状態に適した形態であることが重要です。

そこで昨年、国内の病院・施設・在宅医療および福祉関係者が共通して使用できることを目的とし、嚥下食の基準となる「日本摂食・嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類 2013 (以下 嚥下調整食分類 2013)」が発表され、当院でもそれに見合うように2014年7月より嚥下食の内容を変更しました(図を参照)。

また嚥下食は、安全に経口から摂取できることを重視しており、一般的に摂取量も少ない傾向にあるため、カロリーなどの栄養量が不足しやすいと考えられます。そこで当院では少量の食事でも栄養量確保につなげることを目的に、肉や魚の煮物やゼリーにカロリーアップのための栄養補助食品(液体)を追加したり、ゼリーにかけるソースにバターやマヨネーズを使用するなどしてカロリーアップを図りながら美味しく食べていただけるための工夫を行っています。

さらに、嚥下食をご家庭でも作っていただけますように、入院栄養相談や外来栄養相談を行っておりますので、ご要望時は主治医やスタッフにお尋ねください。

(文/渡辺 紗弥佳)

嚥下調整食分類2013に基づいた当院の嚥下食 ※ピューレ状やゼリー状にする際は専用のとろみ調整食品やゼリー剤を使用しています。

<p><b>嚥下訓練開始食</b> 均一なゼリー状のもの</p>  <p><b>ココを工夫!</b> ○市販の嚥下に配慮したゼリーの既製品を使用</p>	<p><b>嚥下訓練ゼリー食</b> 食物繊維が少ない均一なゼリー状のもの</p>  <p><b>ココを工夫!</b> ○「ゼラチン寒天」という素材を使用すると簡単に作ることができます。 ○果汁を使用したフルーツゼリー、カルピスや豆乳、具のないコンソメスープや味噌汁をゼリーにしたもの、卵豆腐も適しています。</p>	<p><b>嚥下ピューレ食</b> 肉・魚・卵・野菜等の煮物や粥をミキサーにかけ、専用のとろみ調整食品を用い、均質でなめらかでまとまりやすい形態にしたもの</p>  <p><b>ココを工夫!</b> ○和風の煮物だけでなく、牛乳やコンソメを使った洋風煮物も合います。 ○汁物は濃いめのとろみをつけます。</p>
<p><b>嚥下ソフトゼリー食</b> 肉・魚・卵・野菜等の煮物をミキサーにかけ、専用のゼリー剤を使用してゼリー状にしたもの</p>  <p><b>ココを工夫!</b> ○ゼリー状の肉や魚の既製品も販売されています。 ○シンプルな味のゼリーであれば上にかけるソースで変化をつけることができます。 当院の例) チキンゼリーの醤油バターソース えびゼリーのマスタードマヨソース</p>	<p><b>嚥下三分系食</b> ほぐした魚や肉・あら刻みにした野菜を柔らかく煮て、とろみ調整食品でとろみをつけたもの</p>  <p><b>ココを工夫!</b> ○圧力なべを使用すると調理時間の短縮ができます。普通のなべで煮るときは、弱火でコトコトと煮汁を足しながら時間をかけて煮込みます。 ○魚は一度煮るか蒸してからほぐします。 ○肉はミンチ肉を使い、野菜と一緒に煮ると食べやすいです。</p>	<p><b>嚥下五分系食</b> スプーンや箸で割れるくらいの柔らかさで口の中でばらつきにくく飲み込みやすいもの</p>  <p><b>ココを工夫!</b> ○魚は煮魚にしたり、焼き魚はあんかけにすると飲み込みやすくなります。 ○ハンバーグや肉団子は煮込み風やあんかけに、少し脂身のある肉の方が柔らかくなります。 ○菜っ葉は葉先を使用したり南瓜やなすは皮をむいて一口サイズに切り、柔らかく煮ます。</p>

# CLS

Child Life Specialist

チャイルド・ライフ・スペシャリスト

米国で取得した専門資格は「認定チャイルド・ライフ・スペシャリスト」。医療に直面する子どもが心の準備をするためのサポートを行うと共に、遊びを通して不安や緊張を緩和させる役割を担っています。“子ども・家族中心の医療”に貢献するスペシャリストとして、近年注目されつつある職種です。

認定チャイルド・ライフ・スペシャリスト

上田 素子

Motoko Ueda



子どもの目線であたたい診療を目指します。

## 少しでも“痛くなく・怖くなく・楽しく”検査や治療に臨めるように

チャイルド・ライフ・スペシャリスト(以下:CLS)という職種の認知度は、まだまだ低いのが現状です。

しかし、“子ども・家族中心の医療”の重要性が掲げられている今、その役割は大きくなっていきます。当院の小児科ではいち早くCLSを導入し、医師や看護師と連携して、子どもが少しでも“痛くなく・怖くなく・楽しく”医療と向き合えるよう支援しています。

## 見過ごされがちな子どもの気持ちを尊重した医療の提供を

CLSに求められるのは、まず、子どもの目線であることです。従来の診療は、医療者と保護者との話し合いで進められ、当事者であるはずの子どもは二の次になるのが当然でした。検査や治療に際し根拠のない「大丈夫」「怖くないよ」などの声かけで、逆に子どもの不安をあおってしまうケースもありました。見過ごされがちな子どもの気持ちを尊重し、子ども自身が得意な遊びを通してうまく治療や検査に臨めるようにサポートするのが、CLSの役割です。

さらに、子どもといっても、年齢、性別、興味、性格、経験など、背景は様々です。一人一人に即したサポート方法を講じるために、CLSは、できるだけ多くの角度から、その子ども

を知るところから始めます。子どもとのコミュニケーションはもちろん、普段の子どもを誰よりも知るご家族からの情報をキャッチすることも大切にしています。

## すべての子どもとご家族がいつでも手の届く体制にしたい

「学生時代、入院する子どもに遊びを届けるボランティアをしていました。一緒に遊んでいる子どもが検査や治療のために泣く泣く連れて行かれるのを見て、CLSが必要だと感じました」CLSの上田さんは、そう振り返ります。そして今、「検査や治療を目の前にした子どもが、子どもなりに理解して、納得して、上田さんと一緒に行くと言ってくれるときは、本当に嬉しい」と話すのです。

CLSは、小児科に1名のみ。まだCLSに出会えない子どもも多く、病院に行くことになった子どもにどう話せば良いのかと悩むご家族も多いはず。しかし、ご家族の不安は子どもの不安になるものです。困ったときは、小児科に相談してみたいかがでしょうか。



# 連携病院 つなぐ

Cooperation hospital

当院に受診いただいている患者さまの多くは近隣の医療機関からの紹介でお越しいただいています。また専門的な治療が終了したり、ある程度病状が落ち着けば、紹介元の医療機関に紹介させていただいたり、継続して入院が必要であれば病状に応じた医療機関に転院していただいています。

患者さまに本当に必要な医療を適切な医療機関で受けていただけるようにつなぐため緊密な連携を行っています。



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 大阪府済生会

## 大阪府済生会 富田林病院

〒584-0082 大阪府富田林市向陽台1-3-36  
TEL **0721-29-1121** (代表)  
<http://www.tonbyo.org/contents/history.html>



富田林病院外観



リハビリテーションルーム



「私たちは常に研鑽(けんさん)し、医療・保健・福祉活動において地域の皆様から安心と信頼を得る病院を目指します。」を基本理念とし、昭和52年に開業された富田林病院は、300病床を有し、17の診療科と3つの特殊施設からなり、富田林市を中心とした地域医療に貢献されています。

富田林病院は進行の一途をたどる高齢化社会に対応すべく病気になるための予防医療や治療後の社会復帰に重点を置き、健診センターの強化やリハビリテーションの充実、訪問看護ステーションの発展のみならず、隣接する大阪府済生会特別養護老人ホーム「富美ヶ丘荘」や老人保健施設「けあばる」とも密接な連携を図っています。

富田林病院と当院とは患者さまに適切な医療を提供できるよう密接な医療連携を行っており、平成25年度には富田林病院から548名の患者さまを当院にご紹介頂きました。また当院からは病状が落ち着いた等の患者さまを269名受け入れていただくなど病院間の連携にも大変ご尽力いただいています。

### 富田林病院からのメッセージ

Message

富田林病院は近畿大学医学部附属病院と互いに緊密な連携をとる事で、地域の患者さまが安心して治療・療養いただけるよう環境づくりを目指しております。

本年10月には地域包括ケア病棟をオープン致しました。地域包括ケア病棟を持つ事で高度医療機関での超急性期治療後の患者さまの受入や、すぐに在宅復帰に不安のある患者さまに対してリハビリテーション、在宅での療養準備が必要な方への療養環境を提供する事ができ、市民病院として地域の患者さまへより一層貢献できると考えております。

今後も地域に信頼され、患者さまを第一に考えた医療を提供できる病院を目指して、より一層、全職員で努力して参りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

# 患者支援センター

受付時間 月～金 9:00～17:00 ± 9:00～12:00

患者さまの療養生活にまつわる様々なことに対応する総合相談窓口として、他機関や地域そして社会との連携の架け橋となるのが患者支援センターです。患者さま・ご家族・地域の開業医の先生や医療機関、介護施設や介護事業所の方々そして院内のスタッフからのご相談やご依頼をお引き受け致します。患者さまとの信頼関係を大切に受診される皆さまの権利を守っていきたくと考えております。

## 医療相談

- 医療費制度・費用に関する相談
- 公費負担・労災・交通事故等の手続き
- 苦情等
- (患者さま相談窓口併設)
- (肝疾患相談支援センター併設)

## 療養支援

- 在宅での看護ケアの継続
- 介護保険の申請やサービスの調整
- 訪問診療医や転院先の選定

## 福祉相談

- 医療費等経済的な問題
- 社会保険・社会福祉制度について
- 心理的問題 ●社会復帰等

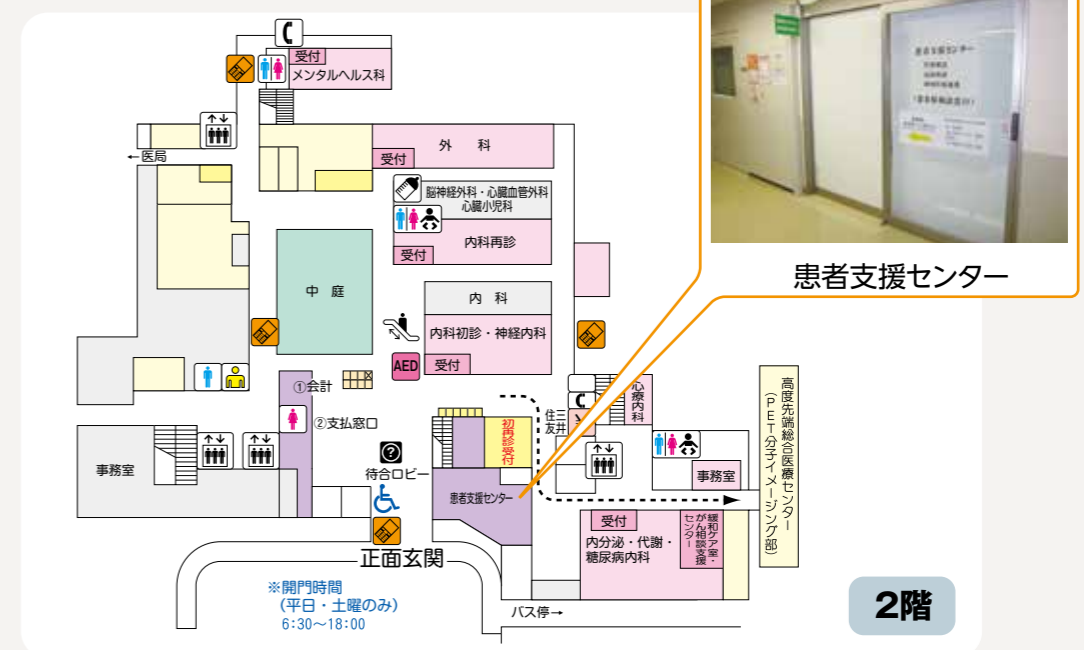
## 医療連携

- 診療の予約
- かかりつけ医選定
- がんセカンドオピニオン等

## その他

- ともに生きる会等
- 患者さま向け講演会事務局
- (がんセンター事務)

### 患者支援センターの場所



患者支援センター

2階

### 《個人情報保護について》

個人情報保護について近畿大学医学部附属病院では患者さまの情報の取り扱いに万全の体制で取り組んでいます。

1. 個人情報の利用目的について当院では、患者さまの個人情報を診療・教育などの目的で利用させていただいております。これら以外の目的で利用させていただく必要が生じた場合には、改めて患者さまからの同意をいただくことになっておりますのでご安心ください。
2. 当院では、患者さまの個人情報の開示・訂正・利用停止等につきましても、「個人情報の保護に関する法律」の規定に従って進めております。